









各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

令和5年 10月のHPきごころ通信 (先月の話題)

目次

- (1)  空室率、10年ぶり高水準 都心オフィス6%超
- (2)  建設費、軒並み最高 東京8月 マンションやオフィス
- (3)  自転車ヘルメット着用13.5%
- (4)  働く高齢者が最多 65歳以上912万人 雇用制度拡充映す
- (5)  基準地価回復、地方に波及 4割超で上昇
- (6)  基準地価、インバウンド追い風 商業地、5府県で上昇
- (7)  全国商業地50%で上昇 大阪や福岡 再開発が後押し
- (8)  犬の寿命、40年で1.5倍以上 予防薬の普及や室内飼育で

(1) 空室率、10年ぶり高水準 都心オフィス6%超

*東京都心のオフィスビルの空室率が10年ぶりの高水準。

*供給過剰の目安とされる5%を31か月連続で上回りました。

*東京都心5区のオフィス空室率は8月時点で6.4%。大阪は4.5%、名古屋は5.6%。

*コロナ禍前水準を超えて推移。

*背景には在宅勤務の一定の定着。

*都内企業のテレワーク実施率は7月で45%を超えます。2020年3月は24%。

(2023年9月8日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 建設費、軒並み最高 東京8月

マンションやオフィス

*8月の東京地区の建築費指数は、マンション、オフィスビル、工場、木造住宅の主要4分野でそれぞれ過去最高を更新。

*マンション（鉄筋コンクリート造）は前年同月比6.1%上昇。

*オフィスビル（鉄骨造）は同5.4%上昇。

*工場（鉄骨造）は同5.6%上昇。

*木造住宅は同2.5%上昇。

(2023年9月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

(3) 自転車ヘルメット着用 13.5%

努力義務化後、初の全国調査 愛媛最高 59.9%、地域差顕著

*4月に自転車利用者のヘルメット着用が全年齢の努力義務となり、警察当局が7月に初めて全国調査。着用率は13.5%。

*最高の愛媛県 59.9%に対し、最低の新潟県は2.4%。

*東京都 10.5%、京都府 10.5%、兵庫県 6.2%、大阪府 4.2%。

非着用、事故の致死率 2倍

*ヘルメット非着用では、事故時の致死率が2倍以上。

*ヘルメットの着用時と非着用時で、事故に遭った際の致死率を比べると、2022年は非着用時が約2.6倍。

*2021年までの5年間でも約2.2倍。

(2023年9月15日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 働く高齢者が最多 65歳以上 912万人

雇用制度拡充映す

*2022年の65歳以上の就業者数は2021年よりも3万人増えて912万人に。

*1968年以降で過去最多を更新。

*就業者数に占める働く高齢者の割合は2021年比0.1ポイント上昇の13.6%で過去最高。

*就業者の7人に1人が高齢者。

*65歳以上の就業率は25.2%。

*65～69歳は50.8%、70～74歳は33.5%。

*65歳以上の高齢者は3623万人で2022年に比べて1万人減。

*総人口に占める割合は29.1%で過去最高。

(2023年9月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 基準地価回復、地方に波及 4割超で上昇

住宅地 31年ぶり上昇

*2023年の基準地価では、全用途の土地上昇割合が全国で44.7%。

*2020年から倍増。

各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

*三大都市圏で上昇した地点の割合は、2023 ねんは 80.8%。

*三大都市圏の住宅地の上昇率は 2.2%に。

☆基準地価 年半ば時点の動向映す

*一般の土地の取引価格の目安や、地方公共団体などによる買収価格の算定基準に。

*毎年7月1日時点の全国の土地の1m²あたりの価格を調査し、国土交通省が9月に公表。

(2023年9月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(6) 基準地価、インバウンド追い風

商業地、5府県で上昇 大阪・京都・兵庫 住宅地も回復

*関西2府4県の2023年の基準地価(7月1日時点)は、和歌山を除く2府3県の商業地が上昇。

*住宅地は大阪で2年連続の上昇。

*大阪府の商業地は全地点で上昇や横ばい。

*20年ぶりにマイナスの地点がありませんでした。

*住宅地は大阪と京都、兵庫の3府県で上昇。

*大阪市内では淀川区が5.3%、都島区が5.1%上昇。

関西2府4県の基準地価平均変動率(前年比)

	商業地		住宅地	
	2023年	2022年	2023年	2022年
大阪	4.3	1.6	1.3	0.4
京都	3.0	1.4	0.5	-0.2
兵庫	1.7	0.4	0.6	-0.1
奈良	0.9	0.0	-0.8	-1.0
滋賀	0.6	0.0	-0.4	-0.9
和歌山	-0.5	-0.9	-0.8	-1.1

(2023年9月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



各新聞など情報誌の記事をピックアップして掲載しています。
木のこと、経済、福祉、災害、エコ、住まいなど、色々な話題です。

(7)  **全国商業地 50%で上昇**

大阪や福岡 再開発が後押し

●東京圏

- *上昇地点が全体の86%。 *全用途平均の上昇率は3.1%。
- *住宅地は3年連続で上昇。 *商業地も11年連続の上昇。
- *住宅地は東京23区の上昇率が4.2%。

●名古屋圏

- *商業地は前年比3.4%上昇。 *住宅地は2.2%上昇。

●大阪圏

- *商業地は3.6%の上昇。 *住宅地は1.1%の上昇。
- *上昇はいずれも2年連続。
- *大阪市では商業地の上昇率は前年が1.7%だったのに対して5.5%。
- *大阪市では住宅地も上昇率が2.5%と前年(1.1%)より拡大。
- *京都市の商業地は4.9%のプラス。 *奈良県では商業地が0.9%上昇。

●福岡圏

- *全用途平均の上昇率は4.2%。

●地方圏

- *全用途の平均地価は0.3%の上昇で31年ぶりにプラス。
- *住宅地は0.1%上昇し、31年ぶりのプラス。

(2023年9月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(8)  **犬の寿命、40年で1.5倍以上**

予防薬の普及や室内飼育で

*2022年の犬の新規飼育頭数は前年比7%増の42万6千頭と過去10年で最高。

*2022年時点の犬全体の平均寿命は14.76歳。

*1980年と比べ寿命は1.5倍以上。

*犬の感染症「フィラリア」予防薬が1990年ごろから普及。

*室内犬が増えたことで、不慮の事故で命を落とす犬が減りました。

*ドッグフードが普及したことで、栄養バランスも改善。

*2022年、犬の飼育で1年間にかけた費用は前年比約3%増の357,353円。 *ペット保険の市場規模は1000億円超。

(2023年9月23日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)